

1 心構え

住宅リフォームに対する関心が高まっています。北海道建築指導センターには面談・電話相談が昨年度、約2千件寄せられました。ほぼ半数はリフォームに関する相談で、住宅新築、業者との接し方などに関するその他の相談を上回っています。

「壁が傷み、汚れも目立つので取り換えたい」「台所が狭く、古くて不便」「家族構成が変わったので、部屋に間仕切りを設けて使いやすくしたい」。リフォームを考える際にはさまざまな理由があるでしょう。

でもどんな場合でも、大事なのは家族で十分に話し合うこと。必要な予算金額をどの程度まで用意できるか、すぐに工事をする必要に迫られているか、優先順位をどう考えるか。後で後悔しないように時間をかけるべきです。

家族の方向性が一致したら、リフォームが必要な箇所を業者に見てもらい、工事期間はどのくらいか、予算の中で工事がどう進められるの

北のすまいリフォーム最新事情

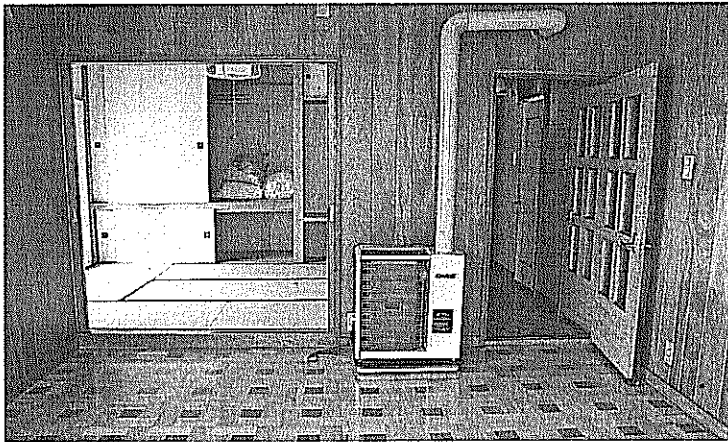
話し合い、情報収集 十分に

か、相談してみましょう。

リフォームは住宅ごとに築年数や構造、断熱性能が異なり、新築住宅の坪単価のように一般的な金額を予想するのが難しいものです。そのため不当に高い金額を提示されてもチェックできず、そのまま支払ってしまうことがあります。工事や見積もりの内容をきちんと確認し、疑問が生じたら納得できるまで質問しま

しょう。悪質な例では、雑な工事で法外な支払いを求められるリフォーム詐欺に遭うことさえあるのが現状です。工事中には、直す必要のある箇所が、思いもかけず発見されることもあります。追加工事費をその都度確認しないのではいかという不安を抱えてしまいます。

室内を大規模にリフォームする場合には、住んだままで工事できるのか、引っ越しなければできないか、その期間はどのくらいになるのかも問題です。住んだまま工事できる方が、引っ越しの面倒がなく、楽な気がしますが、業者の人たちが毎日入れ代わり立ち代わり出入りして騒音やほこりが出るので、日数が長くなると居住者のストレスはかなりのものになります。



④札幌市北区の住宅で2013年に行われたリフォーム以前の住宅内部
⑤居間と和室の境をなくし部屋を広げたリフォーム。断熱、耐震、水回りの工事も併せて実施した



北海道住宅リフォーム推進協議会発行の「北海道の住まいのリフォームガイドブック」の表紙

リフォーム関連の書籍、雑誌のほか、インターネットによる事前の情報収集も心掛けたいものです。例えば建築関係の主要団体が構成する北海道住宅リフォーム推進協議会が発行する「北海道の住まいのリフォームガイドブック」があります。積雪寒冷地ならではの北海道の住宅リフォームの要点について分かりやすく解説しており、参考になります。ガイドブックの問い合わせは北海道建築技術協会 ☎011・2251・2794へ。
(奈良顕子) 奈良建築環境設計室室長、北海道建築指導センター住宅相談員

「北のすまい」リフォーム最新事情」では、寒冷地北海道の住宅リフォームに関するノウハウを北海道建築指導センターの相談員らが紹介しています。第3十回目を掲載します。